

テレワークの取組概要

企業/団体名 | 株式会社RevComm

事業内容 | AI × Voice × Cloudのソフトウェアデータベースの開発

設立 | 2017年7月7日

従業員数 | 290人

所在地 | 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 丸の内ビルディング28階

資本金 | 9億3500万円
(資本準備金含む)

■ テレワーク導入時期: 創業(2017年7月)以来

■ ワークスタイル:

- リモートワーク可・出社可(全国からリモート勤務可能)
- フレックスタイム制(コアタイムなし)
- ライフステージ/スタイルに合わせた多様な勤務形態(時短勤務など相談可)

■ 利用テレワークツール: MiiTel/ Slack/ Notion/ Google 他

■ 自社のテレワークの特徴: 「自由と責任」の両立を追求する働き方

日本各地だけでなく海外在住のメンバーも！



経営効果

採用競争力の向上

全国・海外含む、居住地に制限されない優秀人材の採用が可能に
年間50名-100名の中途社員、ミドル・シニア層の採用を実現

固定費の適正化・可変費化

オフィスや設備維持費の削減により、事業ステージに応じた柔軟な費用設計が可能に
資金を成長投資（開発・採用等）へシフト
シリーズAにして黒字化を達成

事業スケールのスピード向上

人材確保とコスト最適化が両立することで、短期間での雇用拡大・事業拡張が実現

リスク分散と事業継続性

特定拠点への依存を避け、地理的リスク分散を実現。
コロナなどの有事にも、業務を止めることなく事業運営が可能

従業員満足度

2025年3月サーベイ満足度 1位
「ライフスタイルに合わせた働き方」

※全48項目中、社内満足度トップにランクイン
(3位「休日の確保」、11位「ワークライフバランス」)
※産育休からの復職率96.8%。うちフルタイム復帰率93.5%

受賞・採択実績

- 日本スタートアップ大賞総務大臣賞_2025
- 「Forbes JAPAN'S AI 50」
- 「CES® 2025」イノベーションアワード
- 「第18回ASPICクラウドアワード2024」最優秀賞【総務大臣賞】
- 多数の特許登録、国際学会での論文採択等

コミュニケーション文化

距離を超えてつながる文化

- ・日々のSlackでのオープンで迅速なコミュニケーション
- ・自社プロダクト「MiiTel」による社内外会議・商談の可視化と共有
- ・定期的なオンライン・オフラインのイベントを開催し、社員同士の信頼と連携を強化

成功要因

- ① 「自由と責任」を掲げるカルチャーと評価制度
- ② 採用・業務・情報共有を支えるドキュメント文化
- ③ オンライン／オフラインを組み合わせた信頼ベースの関係構築



「日本スタートアップ大賞2025」にてレブコムが総務大臣賞を受賞

レブコム、2025年3月27日（土）18時00分

株式会社RevComm（レブコム、本社：東京都中央区、代表取締役：金沢成浩）は、この度、総務省主催の「日本スタートアップ大賞2025」において、総務大臣賞（総務省スタートアップ賞）を受賞しました。



想定課題と対策 ※一部紹介

コミュニケーションの断絶リスク

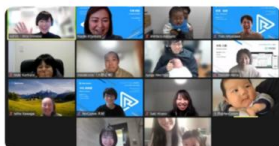
- ・原則オープンチャンネルによるSlack運用
- ・自社プロダクト「MiiTel」による社内外打ち合わせ・社内MTGの可視化
- ・月次の全社員MTGでの事業状況共有
- ・月次の社内報
- ・年2回の全社員オフラインイベント
- ・四半期チームビルディング費用の活用

オンボーディングの属人化

- ・入社後3日間、会社/部署理解のためのオンボーディング
- ・Notionを用いたオンラインオンボーディングパス設計
- ・体系的な新入社員フォロー体制の構築

社員の健康、コンディション管理

- ・月次のパルスサーベイによる定期的なモニタリング
- ・労務相談窓口の設置
- ・家族休暇制度の整備



Random Coffeeの様子

先日HRのメンバーもRandom Coffeeに参加しました！その様子を少しご紹介します。



club-okan-oton (クラブおかん
おとん) オンラインランチ会を開
催しました！

レブコムのリモート・フレックスについてはメディアでも多数紹介
日本経済新聞：<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD012GZ0R00C25A8000000/>

これから導入・高度化を図る企業様へ

ルールより先に前提を整える

「自由×責任」の概念を明確にし、信頼の前払いを前提として、個々の自律性を問う。
細かなルールより、共有すべき価値観と目指す成果を明確にする。

感情の共有設計を怠らない

文字・音声・映像といったコミュニケーション手段の特性を理解し、適切に使い分ける。
特に感情/定性面の共有と関係性構築には、適切な媒体や機会選択が重要。

テレワークはあくまで手段

会社の成長と個人の成長を最大化するためのツールとして活用することが重要。
オフラインコミュニケーションを排除すること、重要度を下げることが目的ではない。

オンライン主体にオフラインを取り入れる

従来の「オフラインの中にオンラインをどう取り入れるか」から、
「オンラインの中にオフラインをどう効果的に取り入れるか」という発想の転換、それ伴
う施策が必要。

詳細は各サイトで



採用情報
Careers

RevComm公式
note